

島嶼における広域分布種ツリガネニンジン類(キキョウ科)の 多様性形成過程の解明

【代表者】

岡崎純子 大阪教育大学 教育学部 准教授

【共同研究者】

名波哲 大阪市立大学 理学研究科 准教授

【研究概要（申請書より抜粋）】

広域分布植物種の離島における多様性形成過程の解明にはその島嶼での多様性の実態と、それらの 移入定着経路の解明が重要である(eg. Travesett et al., 2016)。

キキョウ科ツリガネニンジン類は東日本に変種ツリガネニンジンが西日本には変種サイヨウシャジンが分布する。遺伝的には葉緑体ハプロタイプ多型が認められ、海岸から亜高山帯まで幅広い生態環境に適応している。その中でも特に離島環境は閉鎖生態環境というだけでなく、本土との距離と関連して訪花昆虫相の明らかな変化が推定され広域分布種の種分化機構を解明するのに適した環境となっている。特に伊勢志摩では本土側には 2 つの変種の分布集団が知られている。一方で離島のツリガネニンジン類についてはその両変種がどのように分布しているのか、それらはどの変種集団から由来したのかは不明である。そこで本研究では離島におけるツリガネニンジン類の多様性分化過程を明らかにするため、(1) 形態的変異が島嶼間で見られるのか、(2) 葉緑体ハプロタイプ多型から離島のツリガネニンジン類がどの変種集団由来なのかを明らかにする。